様式1 # 令和4年度　山梨県立あけぼの支援学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	「いきいきと」を校訓とし、教育と医療・福祉が密接に結びついた特色ある教育を実現し、質の高い自立と社会参加に向けて可能性を最大に引き出す教育を行う

山梨県立あけぼの支援学校校長　　小田切　一博

本年度の重点目標	
	1　子どもの可能性を発見して支援する教育の推進
	2　安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育実践
	3　共に豊かな人生を共有する教育の推進
	4　安心安全な教育環境・職場づくりの推進

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（1月27日現在）			実施日　（令和5年2月10日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	子どもの可能性を発見して支援する教育の推進への取組	児童生徒に対するアセスメントを適切に実施できる教員の専門性向上	各種研修計画と成果の振り返り 個別の教育支援計画の検証 専門家の活用状況	・グループ研究や個別の教育指導計画ミーティング、専門家の活用を通して、複数の目で実態把握をしながら教育課程に沿った計画と指導を実践することができた。	B	・適正な人数及び実態を考慮したグループ指導が行えるようにする。 ・個別の教育支援計画の趣旨理解の徹底をし、さらに有効活用ができるようにする。	3	・教員の経験年数等に応じた個々の学びや教員同士の学び合い（OJT）を行い、指導や経験の継承・積み上げをお願いしたい。
		個々の児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業実践及び研究	一人1実践の取組	・児童生徒用のipadや視線入力装置、BYODが日常の学習活動の中で自然に使われるようになった。 ・ICT支援員による体験研修で、アプリの利用の理解が深まった。		・リモート授業についてはコロナ禍の3年間でだいぶ慣れてきたが、音声面や画面のクオリティーをより高めていく。 ・訪問生のリモート環境の向上に向け、県のポケットwifiの貸し出しを利用する。		・コロナ禍だからこそ発展したICTの活用であったと思う。個々の可能性や必要性を見つけ、最新かつ最善の機器を模索・導入していただきたい。 ・今後もICT活用の工夫を検討し、それによって児童生徒の学校生活がさらに豊かになるようにしてほしい。
		新学習指導要領に基づいた自立活動の内容・指導方針の検討	個別の指導計画とその評価 専門家の活用状況 事例集の活用状況の検証	・自立活動の評価法について校内研究を行い、前期は本校に適した評価方法の検討、後期はルーブリックによる評価を具体的に実施しながら事例研究に取り組んだ。		・学習指導要領に基づき、自立活動も含め基本的に教科での指導となることの共通理解を十分行う。系統的な指導目標・内容等、今後も検討が必要である。		・新学習指導要領は、指導の継続性を意識しているようなので、その点を念頭にお願いしたい。
		ICT活用による教職員の業務改善	教職員のストレスチェック結果の分析 学校評価等アンケート	・日々の打ち合わせや会議等をオンラインで行い、スムーズな会の進行やペーパレス等、業務改善に取り組めた。		・全般的に業務の効率化・合理化を進めることができた。 ・アンケートはFormsを使用することで、実施・集計が楽にできるようになった。 ・教職員のICT活用のニーズをつかみ、さらなる業務改善を行う。		・ICTを活用した業務改善が進んでいる。今後も外部や卒業生との交流もオンラインを活用し積極的に行えると良い。
2	安心して健やかな学校生活を享受することを保障する教育実践の取組	事故防止に向けたインシデント・アクシデントの報告・分析と改善の取組	ヒヤリハットの記録の蓄積 教職員の意識化の検証	・事例の提出が少なく、危険予知の観点からインシデント事例を呼びかけると、レベル0の事例が増えた。 ・職員会議で写真を使って対応策を紹介したり、写真を提示したりするなど工夫をした。	A	・事例の提出については、さらなる工夫をして呼び掛けていく。 ・事例を伝えて注意を促すだけでなく、文章と映像を使うなど工夫して伝えていく。	4	・様々な工夫と努力により、安全・安心に子供たちが学校生活を送れたと思います。
		食形態や摂食指導方法の研修の充実による学校全体のスキルの維持充実と安全な給食指導の実施	外部専門家の活用状況 給食委員会での検証 摂食指導カードの記載内容状況の検証	・摂食指導の技術向上のために、専門家と連携を図りながら、よりよい給食指導に努めた。 ・教員から出された課題を検討し、食形態、食具、姿勢等、児童生徒に合った方法を提案することで安全な給食指導ができた。		・摂食指導の学校全体のスキルの維持・充実に努め、専門家からの指導・助言を参考に各種研修会を実施していく。		・給食に関しても、あけぼの医療福祉センターとの連携を密に行い、給食指導の工夫がなされていると思います。今後も保護者への周知・共有を継続して行ってほしいです。
		あけぼの医療福祉センターとのチームアプローチによる指導の充実	学校・センター連絡会の実施と検証	・学校・センター連絡会等で双方の計画等を伝えあい、医療と教育の連携に努めた。		・「緊急時対応検討会」の実施により、センター医師にセンター医師が主治医でない通学生のことを知ってもらう機会が持てた。		・コロナ禍を通して、あけぼの医療福祉センターとの連携は、より強固になったように感じます。今後も連携をよろしくお願いします。
3	共に豊かな人生を共有する教育の推進への取組	本校の専門性を地域に提供し、肢体不自由の特別支援学校の特色を生かした地域支援活動の推進	各種アンケートの結果分析	・自立活動係、研究推進係と連携し、セミナーを実施した。オンラインでの実施は参加がしやすく、参加された他校種の先生方にも好評であった。 ・センター的機能等についての情報提供は、「地域支援だより」の発行を行った。	A	・セミナーは、校内外の教員の資質向上のため、次年度も他分掌と連携して実施していく。 ・本校の教育相談やセンター的機能の内容について、HPの活用も進めていく。	4	・肢体不自由の支援学校として、地域の学校の支援等にも積極的にかかわり、外部への発信も継続して行ってほしい。
		生活年齢に応じた自立に向けた取組とキャリアパスポートの活用	保護者の連携の状況 現場実習の実施状況	・打ち合わせ、会議、メール等で定期的にキャリアパスポートの活用や懇談時の利用を呼びかけ、教員間の意識を高めることができた。		・各学部の進路指導係が中心となり、キャリアパスポートの作成・活用を促進していく。 ・作成例のデータの紹介等、アナウンスの方法を工夫する。		・キャリアパスポートを積極的に活用し、児童生徒や保護者に学校での取り組みや成長の様子が見えるようにしてほしい。
		学校ホームページを充実し、本校の特色および児童生徒の取組を情報発信	各種アンケートの結果分析	・様々な行事や学習活動について、ブログでの掲載を頻繁に行い、保護者や関係者に発信することができた。		・この1年で各担当者のブログ投稿の意識が高まった。ネット発信のリスクも十分考慮しながら、有効に活用していく。		・学校ホームページ・ブログを楽しく拝見しています。写真も多く様子が良く伝わります。保護者あてのプリントにQRコードが貼ってあり、情報発信がなされていて良いと思います。 ・個人情報の取り扱いに配慮しながら、今後も情報発信を続けてください。
4	安心安全な教育環境・職場づくりの推進	感染症対策のための環境整備の充実とまん延防止に向けたマニュアルの適時修正と適切な対応の徹底	必要物品の購入 情報収集とその発信対応の検証	・感染防止のための必要物品の購入、共用部分の消毒を事務室や他の分掌と協力して行った。 ・保健・摂食要覧の「感染症予防」については、来年度末までに見直しを行う。	A	・新型コロナウイルス感染症については、学校全体の協力で大きな蔓延は避けられているが、今後も厳しい状況が続くため、基本的な対策の継続を折に触れて伝えていく。	4	・徹底した管理体制で感染症対策を行っている様子がわかります。それが保護者や児童生徒の安心につながっているので、継続をお願いします。 ・コロナ禍で、特に、あけぼの医療福祉センター入所生は、様々な制限がありますが、状況が整えば現場実習など様々なチャレンジができると良いと思います。
		地域のハザードマップ・危機管理マニュアルに基づいた避難体制の検討と訓練の実施	専門家の活用状況 避難訓練の実施状況の分析	・大規模災害時の本校の避難体制の確認・訓練を複数回行うことで、新たな課題を見つけ改善を行うことができた。 ・あけぼの医療福祉センターとの連携についても検討を始めるようにした。		・引き渡し訓練を年度の早い時期に行う。（12月→5月へ） ・避難訓練の実施により、課題の抽出と解決方法をさらに検討していく。 ・災害時におけるあけぼの医療福祉センターとの連携を具体的に確認できるよう検討を継続する。		・来年度こそ、大規模災害訓練があけぼの医療福祉センターと共同で実施できることを願っています。
		勤務時間を意識した業務改善と勤務振替チケットの積極的利用の推進	各種アンケートの結果分析 チケット活用状況の検証	・会議の設定時間や進行方法の工夫、ペーパレスへの移行等を意識的に行った。 ・勤務振替チケットの発行と利用方法を周知し、積極的な利用を促した。		・働き方改革を意識した取り組みを継続し、メリハリのある勤務ができるよう、勤務振替チケットも継続していく。		・学校の特性として、保護者と担当教員との連絡・相談が多くなってしまいがちですが、ほかの教員でも対応できるように情報共有したり、専門性の高いケアも分散してできるようにしていただきたいです。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。